

岡山から世界へ。 職人の手仕事で紡がれるアートな帽子

株式会社 襟立製帽所

- 代表者名 代表取締役 襟立 重樹
- 所在地 〒719-0243 岡山県浅口市鴨方町鴨方160-8
- 会社HP <http://www.eritate.com>

この美しい帽子は、なにかから作られていると思いますか？

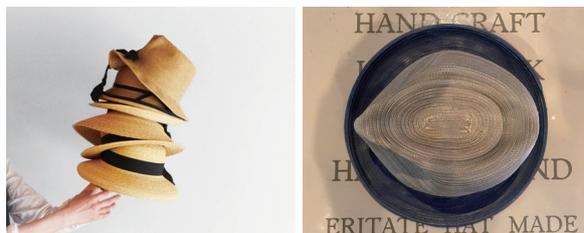


正解は「リボン」です。

日本国内におけるリボン生産の約95%のシェアを誇る福井県で作られた、5ミリ～40ミリの多様なサイズと200を超える色数を特徴にもつバラエティー豊かな“グログランリボン”。このリボンを使い、熟練の職人が岡山県の工場で愛情をたっぷり込めて一点一点丁寧に縫製し、美しい帽子へと仕立てています。このリボンブレードハット*の歴史は古く、1870年代にイタリアの老舗帽子メーカーにより作られたのが始まりだとか。頭頂部からぐるぐると巻いて仕立てるブレード技術は、帽子型を使わずに職人が感覚で縫製するため、非常に高い技術が求められます。

(*ブレードハット (braid hat) とは、編んだり組んだりしたテープ状の紐を渦巻状に編み上げて作った帽子のこと)

手掛けるのは岡山県浅口市の襟立製帽所(えりたてせいぼうしょ)。日本有数の帽子産地として知られている岡山県浅口市にある1960年創業の帽子メーカーです。麦わら帽子の生産から始まり、60年以上にわたりさまざまな帽子を作り続けてきました。OEM・ODM生産以外にもアパレルブランドとのコラボレーション製品の開発を数多く手掛け、日々デザインの研究や技術向上に努めてきた同社。創業から60余年受け継がれてきた熟練の手仕事の技術に、現代のデザインをプラスした存在感のある帽子を作り出しています。



1. 襟立製帽所の過去と現在

現在、襟立製帽所は2代目の襟立重樹社長と14人の個性豊かな従業員が一丸となり、精力的

にビジネスを拡張しています。アパレル業界で20年近く経験を積んだ襟立社長は、創業者である先代から2004年に会社を受け継いだ時、それまでの高度経済成長期の量産体制と下請け体制から脱却し、自社デザインの帽子を企画し、販売を本格的にスタートさせたそうです。ほどなくして2010年には倉敷美観地区に作業場が併設されたコンセプトショップ「襟立製帽所 倉敷本町店」を初出店、2014年には自社商品のみならず国内の帽子ブランドもセレクトした「襟立帽子店」をオープン（現在は閉店）。さらに2017年には、最初の店舗と同じ通りにフラッグシップ店舗である「eritto store + ERITTO & Co. labo」をオープンしました。同店のコンセプトは、「closet」「travel」「gift」。デザイン性と使いやすさを兼ね備えた帽子に加え、オリジナルのお洋服や瀬戸内の風土からインスパイヤされたバックなど、お客様のライフスタイルに寄り添ったオリジナルアイテムを展開しています。長年かけて紡いだ襟立製帽所の思想、デザイン、技術、クラフトマンシップを、国内外の観光客が集まるここ倉敷の地から、余すところなく発信し続けています。



写真：「eritto store + ERITTO & Co.labo」

お店は、“お客様”と伝え手である“販売員”、そして作り手である“職人”をつなぐ大事なコミュニティー。お客様の生の声を新鮮なうちに吸収できることが最大の強みです。

2. 襟立製帽所のこれから

襟立社長と話をするとき、「ああ、社長は本当に人が好きで、好奇心にあふれ、そして創造を愛して止まない人なんだ」と実感します。周りの人を自然とポジティブにさせる襟立社長は、

今後どのような景色を見たいのか、展望について伺いました。

「小さな小さな田舎の町工場から世界に向けて自社製品の発信をしたいと思っています。麦わら帽子の発祥の地であるこの浅口市の周りには南に国産ジーンズ発祥の倉敷市児島、北に目を向けると綿織物の産地井原市があります。“a geographical advantage” “地の利”とはまさにこの浅口市がものづくりに適した場所なのです。麦わら帽子の製造で培った繊細な技術を活用しながらさまざまな素材を開発し、組み合わせをしながら、同時にアイデアを膨らませ、お客様へのきめ細かいニーズに応えられるようなそんな企画・製造・販売統合のワンストップ物流サービスを行いたい。半世紀から一世紀へとつながる会社になりたいと思っています」

3. 最後に

長く続くコロナ禍の閉そく感に、多くの人が苦しんでいます。そんななか、製造の現場では何ができるのか？創造やデザインは人の役に立つのか？と無力感に悩まされている人もいるでしょう。でも、それらは無力でしょうか？私は、今ほど創造力の重要性がはっきりわかる時代はないと思っています。お気に入りの帽子や服、どうしても欲しくて買った家具、そうしたものに触れるとき、気持ちが明るくなったり、落ち着いたり、広く言えば癒しになるということは、だれもが実感していることだと思います。

真の創造やデザインはどんな場所であっても、それ自身が光っているので必ず見つかります。わたしは岡山で襟立製帽所に出会い、人が創るものが、人の人生を豊かにするものだということを再認識しました。これからも岡山から、日本の創造を世界に向けて発信して行ってほしいと切に願います。

独立行政法人 中小企業基盤整備機構
経営支援部 中小企業アドバイザー（経営支援） 石塚 杏梨